

事業成果報告書

(別紙イ)

1. 教育委員会名 : 長崎県五島市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 極小規模小中併設校の特色を生かした生きる力の育成
4. 研究課題 :
 - ①少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
 - ア 特色ある教育活動の実践【魅力ある学校づくり】
 - ・「久賀島だからできる教育、久賀島だから必要な教育」の推進
 - イ 英語で自慢発信【小学校1年生からの英語教育】
 - ・中学校英語科教員による乗り入れ授業の実践等
 - ウ 学校間ネットワーク構築【交流学习・合同行事・遠隔授業実践】
 - ・望ましい社会性、表現力を高めるための交流
 - ②児童生徒数の増加や児童生徒集団の多様性確保
 - ア 「五島市しま留学生受入事業」の推進
 - イ 留学生体験活動の企画・運営
 - ウ 現地見学に対するサポート体制の充実

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

二次離島にある学校は、地理的条件から学校統廃合ができない状況であり、学級の複式化のみならず、学年の在籍数が0名という学校もある。そこでは、一人一人の実態に応じたきめ細かな学習指導や生活指導が行われるなど、極小規模校のメリットを生かした教育が実践されている。また、近隣校との交流学习・合同行事等を通してデメリットの最小化も図ってきた。今後ますます深刻化する学校の小規模化に対応するため、児童生徒に不足している社会性を涵養するとともに、個に応じたきめ細やかな指導を徹底し、さらなる充実を図ることによって、一人一人の子どもに「生きる力」を身に付けさせる。

(2) 調査研究の実施状況（平成30年度）

6月	○文部科学省との委託契約締結 ○遠隔授業開始 ○第1回「少子化・人口減少社会に対応した学校教育推進事業」推進協議会開催
7月	○しま留学連絡協議会との再委託契約締結 ○久賀島「海の会」
8月	○五島市しま留学生受入事業 現地見学開始
9月	○久賀島「島民運動会」
10月	
11月	○外部有識者・五島市教育委員会による研究指定校訪問 (遠隔授業視察・研究中間報告・指導助言) ○「久賀フェスティバル」開催 (学習発表会・島民球技大会等)
12月	○文部科学省視察訪問 (五島市教育委員会・研究指定校) ○次年度受入留学生決定会議

1月	○次年度しま留学「しま親」決定会議
2月	○第2回「少子化・人口減少社会に対応した学校教育推進事業」推進協議会開催 ○五島市しま留学連絡協議会による先進地視察（沖縄県：2名）
3月	○五島市しま留学連絡協議会

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>【学校への研究指定（五島市立久賀小中学校）】</p> <p>①魅力ある学校づくり（地域の良さを生かした特色ある教育活動の創造）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等における探究活動や体験活動を通して、ふるさと（久賀島）への愛着が育まれている。また、学校種や個人に応じた課題を設定し、調査・探究・体験活動を行ったことで、学んだことをさらに追及したり、新たな課題を発見したりするなど、自ら学習を進めていく児童生徒の姿が見られた。 学習内容に関する発表（久賀フェスティバル）や「久賀島パンフレット」の改訂版・英語版の作成等を通して、相手を意識した発表（表現）を心掛けたり、目標に向かって取り組もうとしたり、仲間や教師、地域の方との心のふれあいを深めたりするなど表現力や挑戦心、他者と関わりあう力を高めることができた。 <p>②小学校1年生からの英語教育（英語による情報発信力の育成）</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語科と総合的な学習の時間との関連を図り、中学生による英語劇（久賀フェスティバル）の台本作りや劇の練習を通して、表現力や語彙力、英語学習への意欲が高まった。 乗り入れ授業において、小中共通の教材を使うことで、中学校英語へのスムーズな移行ができるようになった。 外国語に関する掲示物を掲示したり、実際に外国の食べ物を作るなどの活動を仕組んだりすることで、外国の文化への関心が高まった。また、ALTに対して、積極的にコミュニケーションを取ろうとする様子がよく見られるようになった。 <p>③他行との交流学习・合同行事（極小規模校では経験できないふれあい活動の実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの反省を生かし、事前打ち合わせを綿密に行い、スムーズな交流ができていた。また、児童生徒に交流のねらいを意識させ、交流のふり返しを行うことで、回を重ねるごとに、積極的に友達と関わったり、自分の考えや意見を発表したりすることが増え、自信を高めることにつながった。 保健体育科の球技や音楽科の合奏など、少人数では実施が難しい学習活動に取り組むことができた。 <p>④遠隔授業（情報の拡大、表現力向上、思考の拡大を図る授業の実践）</p> <ul style="list-style-type: none"> TV画面を通して自分の考えを伝えるため、資料などの見せ方を考えたり、ゆっくりはっきりといった話し方に気を付けたりと相手を意識して伝えようとする力が高まった。 同じ学校、相手と継続して実施することで、緊張が解け、より自分の意見を伝えやすくなっている。 北海道厚真町との遠隔授業により、普段ふれ合うことのできない地域の児童とたくさんの意見交換ができたことへの児童の満足度が高く、学習意欲への向上につながった。 遠隔授業を続けてきたことで、どの学習（場面）で実施することがスムーズで効果があるのかという教師の授業構想力が高まってきた。
<p>【しま留学連絡協議会（コーディネーター）への研究委託】</p> <p>①留学生及びしま親との連絡調整・相談・支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーターが「しま親」や学校と機会を捉えて、留学生の情報収集・共有に努め、適切な支援を行っている。特に、「しま親」や留学生との相談活動が功を奏し、しま留学の適切な運営につながっている。 <p>②週休日や長期休業における留学生体験活動の企画・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> さつまいも収穫体験や船釣り体験を企画・実施した。豊かな自然の中での体験活動に子どもたちは大変満足している。また、留学生の児童生徒理解にもつながり、その後の支援に役立っている。 <p>③留学希望者の現地見学に対する支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地見学者への丁寧な対応のみならず、希望に応じて「釣り体験」などの活動を仕組むため現地見学者の満足度が高い。留学申込みの大きな要因となっている。
<p>【教育委員会の施策】</p> <p>①五島市しま留学生受入事業の推進・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、25件の現地見学を実施し、留学申し込みが19件（継続：5件、新規：14件）あった。来年度は久賀島で10名、奈留島で3名を受け入れる予定である。また、家族留学を立ち上げ、久賀島に1世帯（小学2年生・中学3年生を含む計5人）を受け入れることが決定した。

(2) 成果物等

○研究指定校（五島市立久賀小中学校）研究報告

(3) 今後の取組予定

○学校への研究指定

- ・ 3年間の取組を持続する。特に、「久賀だから必要な教育」（交流学习や遠隔授業）についての研究をさらに深め、児童生徒の社会性を育む。

○しま留学連絡協議会への委託

- ・ 留学生、しま親、実親、学校との連携を深めながら、留学生の島での生活、自然体験活動を充実させる。また、コーディネーターが留学生と定期的に教育相談をすることにより、悩みや不安の解消に努める。

○教育委員会施策

- ・ 「五島市しま留学生受入制度」を今後も存続させ、学校の存続、児童生徒の社会性の涵養に努める。また、「家族留学制度」の広報活動を充実させ、受入世帯数を増やしていく。